

1 国立中央青少年交流の家のあらし

(1) 設立の経緯

「国立中央青少年交流の家」(当時は、「国立中央青年の家」)は、皇太子殿下(現上皇陛下)御成婚記念事業の一つとして、1959年(昭和34年)に開設された我が国最初の国立青少年教育施設を前身としています。

1958年(昭和33年)7月、駐留していたアメリカ軍の東富士演習場ノースキャンプでレクリエーションセンターとして使用されていた施設が日本に返却されることになりました。

この時、御殿場市に住み、米軍当局と地元民との交流にご尽力されていた根上ツナ女史が、「清浄と平和を象徴している美しい富士山の下に、世界平和を世界の青年に訴える場として国際的文化センターをつくるのが私たちの願いです」(一部略)と、声をあげました。

その根上ツナ女史の思いが御殿場市長を動かし、静岡県知事を動かし、そして、当時の岸信介内閣総理大臣に届き、「国立中央青年の家」が誕生したのです。

「国立中央青年の家 十年のあゆみ」、「玉穂の歴史」(玉穂報徳会)から引用

(2) 国立中央青少年交流の家の役割

国立中央青少年交流の家(以下、「中央交流の家」という。)は、生活体験、自然体験、交流体験、社会参加体験など、日常生活では必ずしも得ることのできない体験活動の機会を提供しています。

研修支援

学校、青少年団体、スポーツ団体、各種サークル・グループ、企業、家族等が多様な自然体験活動や交流活動等が行えるよう、それらの研修活動を支援します。

教育事業

青少年教育の今日的な課題等に対応するため、モデルとなるようなプログラムを開発するほか、青少年教育指導者等の養成・資質の向上を目指した研修事業等を企画実施します。

青少年の健全育成

青少年の体験活動の重要性を広く社会に普及・啓発を図る活動「体験の風をおこそう」運動や「早寝早起き朝ごはん」運動等を推進し、地域の青少年の健全育成に努めます。

青少年教育の振興

教育事業の成果の発信、調査研究活動、関係機関・団体等との連携協力関係の構築等を通じて、青少年教育の振興を図ります。

2 中央交流の家を利用する教育的な意義

(1) 生活・交流体験を通じた社会性の伸長

中央交流の家では、利用者が共同宿泊生活を通じて「規律」「協同」「友愛」「奉仕」の尊さを実践的・体験的に理解することを目指しています。

そのために、「標準生活時間に沿った生活や活動」、「朝のつどいと夕べのつどいへの参加」、「自分たち自身で行う清掃や整理整頓活動」等を意図的に取り入れ、その実施を支援しています。

・「標準生活時間」に沿った生活や活動
・他団体との共同生活(食事や入浴)
・「朝のつどい」と「夕べのつどい」への参加
・清掃、整理整頓、片付け等の自発的な実施

・早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣の体得
・他者理解や他団体への心配り
・他団体との交流やコミュニケーションの推進
・自律、感謝、ルールの遵守

(2) 多様な体験活動を通じた実践的な力の育成

多様な体験活動や交流活動、研修活動を通じて、社会の中で役立つ実践的な力を身につけるとともに、他者や社会との関わりなどを学ぶことができます。